しもつけクイズ【正解は②】詳しくは3ページをご覧ください。

「多文化共生」を考える

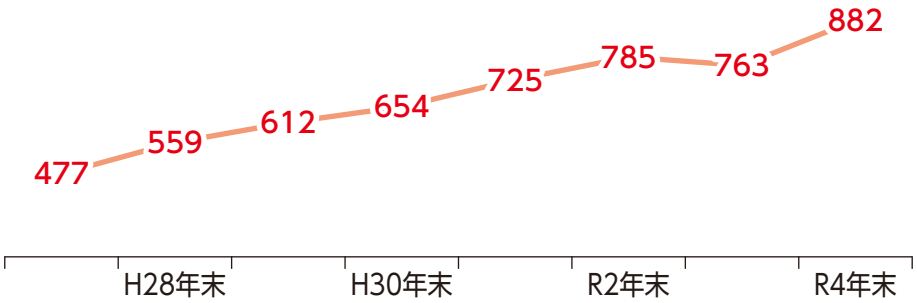
■問い合わせ先　市民協働推進課　☎(32)8887

市内のお店で、職場や学校で、ご近所で、外国人を見かけることは日常になっているのではないでしょうか？

令和４年12月末時点で、下野市に暮らしている外国人の数は882人。５年前に比べると、250人以上増えました。また、41か国・地域の人々が、下野市の市民となっています。

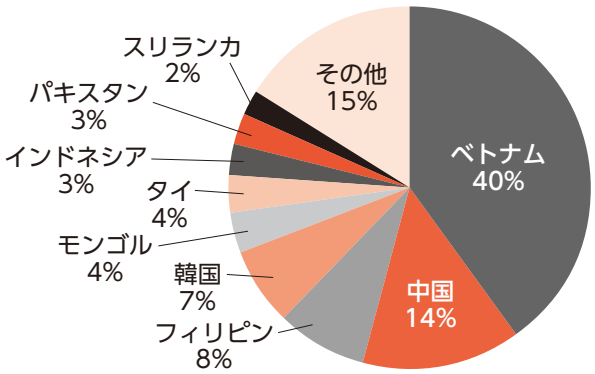
市国際交流協会が開催した日本語スピーチ発表会の様子（平成25年）

下野市の外国籍住民の人口の推移



下野市の外国人の国籍等

ベトナム	355人
中国	123人
フィリピン	71人
韓国	62人
モンゴル	31人
タイ	31人
インドネシア	24人
パキスタン	24人
スリランカ	21人
その他	140人



下野市で生活している外国人の方々にとって、母国と日本の文化や習慣の違いに戸惑うことや悩むことは少なくないでしょう。日本語を十分に理解できなかったり、地域のルールがわからなかったりして、困っている方もいるのではないでしょうか。

そんな違いを乗り越え、同じ地域に暮らす市民同士として共に生きていこうという考え方が『多文化共生』です。

多文化共生とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」（総務省：多文化共生の推進に関する研究会報告書より）をいいます。

「やさしい日本語」を知っていますか？

外国人と話すというと英会話をイメージしがちかもしれませんが、すべての外国人が、英語が得意なわけではありません。日本に暮らす外国人と日本人の共通言語、それは、日本語です。

日本語が得意でない外国人にも理解しやすい「やさしい日本語」を活用しましょう。

「やさしい日本語」とは、相手に配慮したわかりやすい日本語のことです。

東京都国際交流委員会が平成30年に行った調査では、「希望する情報発信言語」として「やさしい日本語」を選んだ人が76％と最も多く、68％の英語を上回りました。アジア圏の出身者が圧倒的に多い下野市では、もっと多いかもしれません。

やさしい日本語のコツ

主語や目的語を明確に

日本語では、主語や目的語を省略して言うことがありますが、外国人にはわかりにくいです。「誰が」「何を」するのか、はっきり伝えましょう。

短く区切ってゆっくり話す

文章を意味のかたまりごとに区切って話しましょう。

あいまいな表現は避ける

遠回しな表現や敬語より「○○してください」などの直接的な言い方のほうが伝わります。

使ってみよう やさしい日本語

次の文章を、やさしい日本語に直してみましょう。

Q　ここは土足禁止です。

答えの例を下に載せていますが、やさしい日本語に正解はありません。対話する相手の日本語力や、日本の文化や社会についてどのくらい知っているかによって変わるからです。

１人ひとりが相手と真摯に向き合うことこそ、多文化共生の第一歩。あなたも、その一歩を踏み出してみませんか？

A　ここでは靴をぬいでください